

ドル/円相場のトレード戦略

■ 中長期展望

昨年末のトランプ・ラリーによるドルの急上昇に対する調整が本年初から続き、2月第2週には111円台半ばまで下押しする動きとなりました。

【ドル/円 週足】



これは、年初からトランプ大統領が米国の貿易赤字に懸念を表明し、赤字の多くを占める中国や日本に対し批判を強め、ドル高をけん制する発言をしたことが背景にあります。

トランプ大統領は、彼の支持者の期待にこたえなければならず、そのためには米製造業の雇用を増やす必要があります。米製造業の雇用を増加させるためには、輸出の拡大が必要であり、それにはドル安が有効であるということです。

しかし、トランプ大統領が行おうとしている経済政策は、減税、規制緩和、インフラ投資の拡充という財政政策であり、これは米国の経済成長をもたらすとともに、FRBの利上げ継続を正当化することとなりますが、同時にドル高をもたらすものです。

過激な発言を繰り返す大統領がこの矛盾にどう取り組むのかという点に関し、市場の不透明感が高まり、疑心暗鬼が外国為替市場においてポジション調整を引き起こしていたといえますが、日米首脳会談の結果、日米のより強固な協調関係が確認されたことにより、政治的な圧力が加わる可能性が後退したことは重要といえます。

3月の米FOMCで市場の予想通りに利上げが行われたものの、利上げ見通しが加速することがなかったためドルは反落しました。

ドルの一段の上昇には、トランプ政権による経済政策の具体化が必要といえ、経済政策の内容がト

ドル/円相場のトレード戦略

ーンドウンした場合にはドルの下値不安が大きくなっていくことには注意が必要でしょう。

■ 短期展望

先週は、市場の予想通りに米国が利上げを行ったものの、利上げ見通しが加速しなかったことに対する失望感からドルが売られ112円台で週を越えました。

今週もドルの上値の重い展開が予想されます。

先週の動きで、115円水準が強い上値抵抗であったことが確認され、ドルの戻りも限られたものとなりそうです。

ただし、米国の利上げ継続はドルを下支えする要因であり、先月の安値111円台半ばを下抜けることも難しいと考えます。

したがって、今週は111円半ばから114円半ばでレンジ相場を形成し、次の材料を模索する動きになるものと思われます。